

## 「セズニイル」「セズニイラレナイ」について

尾崎 奈津

### 1. はじめに

否定の複合形式の一つに「セズニイル」という形式がある。「セズニイル」は意味上、次のように「シナイ」「シテイナイ」に近づく場合があるためか、従来、アスペクトとの関連でとりあげられることが多い。

(1) 長い間、太郎は次郎と {会わないでいた/会わなかった/会っていなかった}。

だが、果たしてこの形式をアスペクトの関連形式として位置づけてよいのか、またそもそもこの形式はどのような意味を持つのかといったことについては、詳しい記述はこれまでほとんどされていない。そこで、この論文では「セズニイル」を考察の対象にして、その基本的な意味および意味的なバリエーション（以下、これを「意味タイプ」とする）などをなるべく詳しく記述していきたい。その上で「シナイ」「シテイナイ」との違いも明らかにしていく。

また、「セズニイル」に可能の否定形が下接した「セズニイラレナイ」という形式がある。この形式についても意味タイプおよび周辺形式との関係を記述していく。

なお、「セズニイル」の類似形式として「シナイデイル」があるが、両者には可能の否定形が続く場合は主に「セズニイラレナイ」が使われ、「シナイデイラレナイ」はあまり使われれないという点を除けば、目立った違いはみられない。そこで以下ではこの二形式を区別せずに扱い、「セズニイル」で代表させることにする。

### 2. これまでの研究

ここでは「セズニイル」に関する先行研究をみていく。

高橋(1976)は「セズニイル」を「「していない」と同様、「している」のうちけしの形式」とした上で、「「している」よりも、むすびつきがよわく、「いる」の本動詞性がつよくのこっている」こと、また「非情物は、主語にならない」(p.128)ことを指摘している。

これに対して寺村(1979)は、「セズニイル」は「シテイル」に対応する否定形ではなく、「イル」は「本来の動詞としてのイル(居る)であり、～ナイデの部分それを修飾している副詞句的な成分」(p.211)であるとし、その理由として、「セズニイル」には有情の名詞しか主語になれないという制限があるが「シテイル」にはこういった制限はないこと、また「セズニイル」は「言イ出セナイデイル」のように可能形をとることができるが「シテイル」は「\*言イ出セテイル」のように可能形はとれないことをあげている。

工藤(1996)は「セズニイル」と「シナイ」「シテイナイ」を、「アスペクト的に、次のように対立」(p.131)するものとしている。

(2)シナイ (シナカッタ) —完成性の否定

シテイナイ (シテイナカッタ) —継続性・パーフェクト性の否定

シナイデイル (イタ)、セズニイル (イタ) —否定 (非現実) 状態の継続性

さらに、「帰れないでいる」のような「可能形式とのむすびつきは、意志的努力があるにも関わらず、状況に阻まれてアクチュアル化しない状態が続いている」(p.131) ことを明示するものであるということを描している。

金水(2000)は、「セズニイル」を「アスペクトと言えるかどうかは微妙」だが、「本来なら行っていないかなければならない動作を行っていない」「普通なら起こる出来事が起こっていない」のように、ありうべき事態を予測しつつその否定を行うという点で、様相的 [尾崎注：様相性=モダリティ] な意味を帯びているとも言える」(p.53) としている。

以上の指摘をふまえ、以下では「セズニイル」の意味タイプ、及び全体像をみていく。

### 3. 「セズニイル」の基本的意味

意味タイプをみる前に、「セズニイル」の構造および基本的な意味を確認しておこう。まず、「セズニイル」の構造を「シテイナイ」と比較しながらみている。

「セズニイル」と「シテイナイ」はどちらも複合的な形式であり、否定辞を含む点、「イル」「イナイ」という存在表現を含む点で類似している。だが、両者は構造上次のように異なっている。

(3) 「シテイナイ」 — [シテイナイ]

(4) 「セズニイル」 — [セズニ] [イル]

「シテイナイ」は、「セズニイル」と異なり、形式の間に切れ目がない。つまり、「シテ」と「イナイ」は独立しておらず、両方が合わさって一つの否定形式を構成している。次の(5)のように、肯定極性表現の「何か」が共起しないのは「シテ」の部分が独立していないためである。そして(6)のように否定極性表現の「何も」が共起するのは、全体で一つの否定形式になっているためである。

(5) # 太郎は何かしていない<sup>1</sup>。

(6) 太郎は何もしていない。

これに対して、「セズニイル」は「セズニ」と「イル」がそれぞれ独立しており、(4)のような二重の構造を成している。このことは次のような一連の現象から確かめられる。

「セズニイル」は次の(7)のように「何も」「だれにも」のような否定極性表現と共起する。

(7) 太郎は 何も / だれにも 話さずにいる。

「何も」「だれにも」などが共起可能なのは、これらの補語を支配する「話さずに」の部分が独立して否定の機能を保っているためである。

(7) 太郎は [何も／だれにも] 話さずに] いる。

だが、同じく否定極性表現でも、「だれも」とは共起しにくい。

(8) (朝、道に落ちていた財布が夕方同じ場所にあるのを見て)

??だれも拾わずに] いる。

これは次のような事情による。「だれも」は、(8)でいえば、「拾わずに」の主語であると同時に、「いる」の主語でもある。

(8') だれも [だれも拾わずに] いる。

このうち、「だれも」と否定の「拾わずに」が共起するのは問題がない。だが、「だれも」と肯定の「いる」が共起するのは不自然である。そのために、(8)の文が不自然に感じられるのではないと思われる。言い換えれば、「セズニイル」が「だれも」と共起しにくいのは、「イル」の部分が独立しており、肯定の機能を保っているためである<sup>2</sup>。

以上のように、「セズニイル」は「セズニ」＋「イル」という構造を持っている。このことから、「セズニイル」の基本的な意味は次のように規定できる。

(9) 「セズニイル」の基本的意味：当該の事態が実現しない状態で (= 「セズニ」) いる (= 「イル」) という主体のあり方 (正確には “い方”) を表す。

さて、この意味規定は「セズニイル」が、「セズニ」の部分では“当該の事態 (= [～する] こと) が実現しない”という否定の意味を表しながら、最終的には“主体が (その状態で) いる”という肯定の意味を表すという肯否両方の側面を持った形式であることを示している<sup>3</sup>。「セズニイル」は、意味の面からみても、肯否の合わさった複合的な形式である。

以上、この節では「セズニイル」の構造と基本的な意味をみたが、さらに「イル」の部分については、単に構造的に独立しているかどうかだけでなく、有情物を主語にとるという「居る」本来の性質を保っているかどうかということも問題となる。これについてはここでは保留にし、4節で実際の例をみた後に検討することにする。

#### 4. 「セズニイル」の意味タイプ

##### 4.1 意志・努力、期待を含意するタイプ

3節で、「セズニイル」は当該の事態が実現しない状態にいるという主体のあり方を表す形式であるとしたが、実際にはこの基本的な意味に、さらにさまざまなモーダルな意味合いが絡み、その意味内容は多様である。ここでは、「セズニイル」の意味タイプの分類を行い、その実態をみていく。

なお、「セズニイル」は3節で述べたように二重の構造をしている。そのため、次の(10)のように文の中に「セズニ」の主体 (= 「イメージ」) と「イル」の主体 (= 「A投手」) の両方があらわれる可能性がある<sup>4</sup>。以下で“主体”という場合は、「イル」の主体を指すものとする。

(10) A投手は阪神戦で打ち込まれたイメージが抜けないでいる。

まず、「セズニイル」には主体の意志・努力や期待を含意するタイプがある。このタイプはさらに二つに分けられる。第一のタイプは、当該の事態が実現してもおかしくない状況だが、主体の意志・努力により、または（他者の助けなどにより）期待通り実現しない状態で主体がいるということを表すものである。なお、表現が煩雑になるため、以下の意味説明では‘実現しない状態で主体がいる’の‘主体が’の部分は明記しない。

(11) その臭いが僕を始めて動揺させたが、僕は白っぽい光のみちた部屋の内部を見つめたまま、顔をそむけないでいた。(死者)

(12) Aさんは九十歳を超えたお母さんと二人暮らし。お母さんを散歩や病院へ連れて行ってくださるボランティア、おふろの介助をしてくださるヘルパーさんら何人もの方が家に入出入りされますが「おかげで私たちは寝込まずにいられる」と感謝し、お母さんも健康そうで幸福そうです。(佐賀'01/1/11)

(11)はひどい臭いのため、顔をそむけてもおかしくない状況だが、意志・努力で顔をそむけない状態であることを、また(12)は、寝込んでもおかしくない状況だが主体の期待通り幸運にも寝込まない状態であることを表している。このタイプの例には「どうにか／なんとか」が共起可能である。

(11') その臭いが僕を始めて動揺させたが、僕は白っぽい光のみちた部屋の内部を見つめたまま、|どうにか／なんとか顔をそむけないでいた。

(12') おかげで私たちは |どうにか／なんとか寝込まずにいられる。

このほかに、次のように「わざと」や「あえて」が共起する例がある。

(13) 験を担いでそらずにいたひげがほとおごを覆う。(佐賀'02/1/25)

(13') 験を担いで |わざと／あえてそらずにいたひげがほとおごを覆う。

この例は、“ひげは普通はそる”というように“一般的に考えれば当該の事態が実現してもおかしくない”ということを表しており、その点で“現実の状況をみると当該の事態が実現してもおかしくない”ということを表す(11)(12)とはやや異なっている。だが、主体の意志により実現しない状態であることを表していることから、ここで見る第一のタイプに入れておいてよいだろう。

以上のようなタイプを、“意志・努力、期待に沿った不成立”(当該の事態が実現しないことを“不成立”とする)を表すタイプとしておく。なお、6節でみる「セズニイラレナイ」はこのタイプのうち、(12)のような可能形が後接したものから派生した形式である。

主体の意志・努力を含意する例のうち第二のタイプは、逆に主体の意志・努力にもかかわらず、当該の事態が実現しない状態であることを表すものである。

(14) 彼はそれらのデータと設計図を石とともに背負って会社へ通った。なにかの折に、外山三郎の前に出そうと思ったが、その勇気がでないでいた。(孤高)

(15) 今のうちに口約束でいいから次の相手と契約しておいたほうがいい。エディは、そうね、そうね、と頷きながら、しかし実際はどうにも手を下せないでいるようだった。(一瞬)

上記の二例は、主体の意志・努力にもかかわらず勇気がでない状態であること、手を下せない状態であることを表している。このタイプの例には(15)にあるように「どうにも」が共起可能である。

(14') なにかの折に、外山三郎の前に出そうと思ったが、どうにもその勇気がでないでいた。

以上のようなタイプを“意志・努力に反する不成立”を表すタイプとしておく。

以上、ここでは意志・努力、期待を含意するタイプをみた。

#### 4.2 当為判断を含意するタイプ

次に、「セズニール」にはいわゆる当為判断を含意するタイプがある。これも、さらに二つのタイプに分けられる。まず、第一のタイプは当該の事態を実現すべき、あるいは実現しなければならないのに、実現しない状態であるということを表すものである。

(16) 幾つかの会社勤めもうまく行かず、やがて幾つかの商売にも手を出して失敗した私は、伯母が誰にも内緒でそと貸してくれた六十万円近い金を返せないまま、もう二年以上も、顔を出すどころか電話一本かけないでいます。(錦繡)

(17) われわれはこうした努力をあまりにしなすぎました。こうした方面に大切なことがあるということすら考えないでいました。(堅琴)

(16)は顔をだす、あるいは電話をかけるべきなのにそれをしない状態であることを、また(17)は考えるべきなのに、考えない状態であることを表している。これらの例には「ずるずると」「うかつにも」など、“怠慢”“横着”といった意味合いを持つ表現が共起する。

(16') もう二年以上もずるずると、顔を出すどころか電話一本かけないでいます。

(17') こうした方面に大切なことがあるということすらうかつにも考えないでいました。

このタイプを、“義務・必要に反する不成立”を表すタイプとしておく。

当為判断を含意するタイプのうち第二のタイプは、論理的に判断して当該の事態が実現して当然なのに、なぜか実現しない状態であるという意味を表すものである。実例をみると、このタイプのものは動詞の種類が次の二つに限られている。一つ目は「知る」「忘れる」「気づく」「感づく」など、認識に関する動詞を含むものである。

(18) ドン河の上流まで出向いて毛皮の買いつけに忙しかったテダルディは、夏のはじめからターナではもちきりだったこの噂を、今になるまで知らずにいたのだった。(陥落)

(19) 一度か、二度、わずかな時間語り合っただけの人の名前を忘れないでいるのは、やはりあの楽食の印象が、かなり強烈だったせいに違いない。(風吹)

(18)は、皆が知っている噂を主体も知っていて当然なのに、知らない状態であることを、(19)はわずかな時間語り合っただけの人の名前であれば忘れて当然なのに、忘れない状態であることを表している。

二つ目は、動きや変化を表す動詞を含むものである。

(20)ただあるところで、二尺ほどもある大きな蜥蜴が噛みあって、双方とも死んだように動かないでいるのを見ました。(豎琴)

(20)は生きている蜥蜴であれば動いて当然なのに、動かない状態であることを表している。

以上のような第二のタイプの例は、「なぜか」と共起する。また「不思議」という表現ともなじみやすい。

(18')ドン河の上流まで出向いて毛皮の買いつけに忙しかったテダグデイは、夏のはじめからターナではもちきりだったこの噂を、なぜか今になるまで知らずにいたのだった。

(19')一度か、二度、わずかな時間語り合っただけの人の名前をなぜか忘れないでいるのは、やはりあの楽食の印象が、かなり強烈だったせいに違いない。

(20')ただあるところで、二尺ほどもある大きな蜥蜴が噛みあって、双方ともなぜか死んだように動かないでいるのを見ました。

(21)こんな大きな事がらが、どうして今日まで知れずにいたのか、不思議でたまらないが、この書きつけは文化九年のものであって、古ツツラに突っこんだままになっていたから、調べてみる人もなかったものらしい。(路傍)

以上、ここでみたタイプを“予測に反する不成立”を表すタイプとしておく。

さて、この“予測に反する不成立”を表すタイプの中には、やや特殊な例がある。

(22)そうして私は自分の行く手に、真っ白な、小さな橋と、一本の大きな蝙蝠傘のような樅の木を認めだすと、私はすこし歩みを緩めながら、わざと目をつぶった。その木蔭になって見え<sup>ず</sup>にいるものを、私のすぐ近くに、不意に、思いがけぬもののように見出したかったのだ。(風立)

(23)萩原健一がせつせと手紙を書いた相手が、この人。亡くなる直前「動かないでいることしかできなくても、つとまる役はあるかしら」と言い残す。(佐賀'00/12/31)

(22)は“存在するのだから見えて当然なのに見え<sup>ない</sup>”、(23)は“役を演ずるのであれば動いて当然なのに動かない”と解釈すれば、どちらも“予測に反する不成立”の例の一種となる。だが、(18)～(21)と異なり、“なぜか、不思議なことに”実現しないという含意がほとんどない。実際に、(22)(23)は「なぜか」とは共起しにくい。

(22')??その木蔭になってなぜか見え<sup>ず</sup>にいるものを、私のすぐ近くに、不意に、思いがけぬもののように見出したかったのだ。

(23')?? 亡くなる直前「なぜか動かないでいることしかできなくても、つとまる役はあるかしら」と言い残す。

これらの例は、当為というモーダルな意味が希薄であり、(22)であれば“見え<sup>ない</sup>状態で、そこに存在する”というように、主に“～しない状態<sup>で</sup>いる”という主体のあり方、すなわち「セズニイル」の基本的な意味だけを強く表している。このような例を“主体のあり方”を表すタイプ(モーダルな要素の希薄なタイプ)としておく。なお、このタイプの例に現れる動詞は、(22)の「見える」やある

いは「目立つ」のような見え方にかかわる動詞か、(23)の「動く」のような動き・変化を表す動詞に限られる。

#### 4.3 用例の傾向と「イル」の意味特性

以上、「セズニイル」の意味タイプをみてきた。ここでは各タイプの用例の傾向について述べ、そこから「イル」の部分の意味特性について考えてみる。

##### (24)《セズニイルの意味タイプ》

- 意志・努力、期待を含意するタイプ
  - A. “意志・努力、期待に沿った不成立” ⇒ 「セズニイラレナイ」につながる
  - B. “意志・努力に反する不成立”
- 当為判断を含意するタイプ
  - C. “義務・必要に反する不成立”
  - D. “予測に反する不成立”
  - D'. “主体のあり方” (モーダルな要素の希薄なタイプ)

「セズニイル」の意味タイプは、上記の5つに分けられるが、実際の例をみると用例数にかなり偏りがみられる。次の表は上記の各タイプの出現率を示したものである。

(表1)

| 意味タイプ          | 意志・努力、期待を含意するタイプ |                | 当為判断を含意するタイプ |              |              |
|----------------|------------------|----------------|--------------|--------------|--------------|
|                | A                | B              | C            | D            | D'           |
| 用例数<br>(計681例) | 177<br>(26.0%)   | 400<br>(58.7%) | 36<br>(5.3%) | 55<br>(3.1%) | 13<br>(1.9%) |

表1が示すように、「セズニイル」の例は、実際には意志や期待、当為判断といったモーダルな要素を含む例が圧倒的に多い。中でも意志・努力、期待を含意する例が大半を占めている。

こういった用例数の偏りの他に、非情物主語の例、および4.1で述べた異主語の例についても偏りがみられる。まず、非情物主語の例の偏りからみてみよう。

次の表は各タイプにおける非情物主語の出現率を示したものである<sup>5</sup>。なお、CとDの例は、次の(25)(26)のようにどれも受身形であり、非情物主語といってもやや特殊であるため( )付で示した。

(表2)《非情物主語の出現率》

| 用法と全用例数  | A      | B      | C      | D      | D'    |
|----------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 非情物主語    | (177例) | (400例) | (36例)  | (55例)  | (13例) |
| 用例数      | 6      | 11     | (2)    | (1)    | 7     |
| 全体に占める割合 | 3.4%   | 2.6%   | (5.6%) | (1.8%) | 53.8% |

(25) 大そう寒かった。闇屋風の若者たちが二三人、松の内を過ぎてまだ取り払われずにいる門松の葉をむしって通った。(金閣)(C)

(26)私があんまり高いので却って私に気づかれずにいた、それだけが私にとっては昔馴染の桜の老樹が見上げられた。(風立) (D)°

表2が示すように、非情物主語の出現率はD'のタイプが圧倒的に高い。もっともこの傾向は、A~Dが、意志・努力や期待、“怠慢”“横着”、“気づく”“知る”といった認識というように、すべて有情物、特に人間にかかわる特徴を持つものであり、その中でD'のみが単なる主体のあり方を表すということを考えれば、当然のことであろう。

次に、「セズニ」と「イル」の主語が異なる例であるが、こういった異主語の例は全用例中9例(Bの例が7例、Dの例が2例)しかなく、実例からはあまりはっきりしたことがいえないのだが、少なくとも意味上、Cには「??Xは「ずるずると／うかつにも」 Yが～せずにいる」のように異主語の例は現れにくい。またD'の例も考えにくい。

さて、以上の各傾向から、3節で保留とした「イル」の意味特性の問題、および「セズニイル」の実状について考えてみよう。従来、「セズニイル」に関しては「イル」が本動詞としての「居る」の意味を保っているかどうかということが問題にされてきた。そして先行研究では、非情物主語をとり得るかどうかという観点からこの問題が考えられていたが、上記の意味タイプの分類、および用例数の偏りからもこの問題に対する答えが得られる。

上述したように、「セズニイル」の各タイプはD'以外はすべて有情物、その中でも主に人間にかかわる意味合いを持つものである。しかも、用例数をみると、D'の例は非常に少なく、A~Dの例が大半を占めている。このような傾向から、「セズニイル」の「イル」は「居る」本来の意味特性、すなわち有情物を主語にとるという性質をかなり強く残していることがわかる。

3節で「セズニイル」の「イル」は独立しているとしたが、「イル」が「居る」本来の意味特性を残しているということは、「イル」の構造上の独立性とも符合するものである。

だが、同時に「イル」の独立性が弱まっている部分もみられる。上記で述べたように、異主語の例は意志・努力、希望を含意するタイプに現れる可能性が高く、当為判断を含意するタイプには現れにくい。しかも、D'では「居る」の本来の意味特性が薄れ、有情物主語が多く現れている。このことは、意志・努力、希望を含意するタイプから当為判断を含意するタイプへ移るにつれて、“[セズニ][イル]”という複文構造が弱まっていること、そして「イル」の独立性が薄れてきていることを示しているものと思われる。

以上のことから、「セズニイル」は基本的には“[セズニ][イル]”という構造を持っており、意味の上でも「イル」が独立性を保ってはいるが、一方で意味タイプにより、一部形式の融合が進んだ部分もあるといえるのではないかと思う。



#### 4.4 「シナイ」「シテイナイ」との違い

以上、3節と4節では「セズニイル」について検討した。ここで、これまでの内容をひとまずまとめしておく。そして最後に「シナイ」「シテイナイ」との違いについて述べる。

(27) 「セズニイル」

- ・基本的意味：当該の事態が実現しない状態であるという主体のあり方（正確には“い方”）を表す。「イル」は本来の「居る」の意味を強く残している。
- ・意味タイプ：(24)に示した5つのタイプがある。
- ・用例の傾向：意志や期待、当為判断といったモーダルな要素を含む例が圧倒的に多い。

さて、「セズニイル」は「いる」ということを表す形式であり、その点で「シナイ」「シテイナイ」といった「運動内部の時間的展開の姿をとらえる」（工藤(1995)p.61）アスペクト形式とは異なるものである。さらに、意志・努力や期待、当為判断といったモーダルな意味を強く含意する点でも、「シナイ」「シテイナイ」とは異なっている。

もっとも「シナイ」「シテイナイ」も、たとえば“主体の意志”、“論理的に判断して当該の事態が実現していて当然”といった意味合いをまったくもたないわけではない。

(28)花子はケーキに眼がないのに、ダイエット中らしく、一口も食べなかった。

(29)まだ荷物が届いていない。

上記の二例は、“意志により食べなかった”“届いていて当然なのに届いていない”という解釈が可能である。だが、これはあくまでも、肯定的想定を前提とするという否定の特性から臨時的に生じる意味合いである。一方、「セズニイル」の持つ意味合いは、形式自体にかなり強く焼きついたものである。これは、次のような例から確かめられる。

(30)太郎は煙草を、目下のところは{吸わなかった／吸ッテイナカッタ／吸ワズニイタ}。運動をやっていて、体力の保持に腐心していると、煙草を吸うことなど考えられなかったし、両親からも、酒は飲んでもいけれど、煙草はやめとけ、と言われていたからだった。(太郎)

(30)では、三形式すべてを使うことができる。だが、「シナイ」「シテイナイ」と「セズニイル」では意味が異なる。「シナイ」「シテイナイ」は単に“煙草を吸う習慣がない”ということ述べているにすぎない。だが、「セズニイル」にすると、“吸いたいのに意志でがまんしている”という意味合いが生じてくる。

また、次のような現象も、同様の違いを示すものである。用例をみたところ、「知らずにいる」の例はどの例も(31)のように「知らない」で置き換えることが可能であった。

(31)夜 何も {知らずにいた／知らナカッタ} のは私だけだったのだ。(風立)

だが、唯一次の(32)では「知らない」にすると許容度が落ちるように感じられた。

(32)おかみのいうには、日頃御ひいきに預っているお客様のお宅にお喜びのあった時、万一伺わなようなことがあっても、それはたいして手落ちとは思いませんけれど、御不幸があった場合、

{知らずにいる/?知ラナイ}くらい、不義理なことはありません。(路傍)

この違いは、「不義理」という語によるものではないかと思われる。すなわち「不義理」は“知っていなければならない(のに知らない)”という当為判断を伴う。したがって同様の当為判断を含意する「セズニイル」は「不義理」の内容説明としてふさわしい。一方、「シナイ」は本来的に当為判断を含意する形式ではない。そのため、「不義理」とはそぐわないのではないかと思われるのである。

このように、「セズニイル」と「シナイ」「シテイナイ」は、「いる」ことを表す形式か、アスペクト形式かという点、さらに意志や当為判断といったモーダルな要素が強く焼きついているかどうかという点で異なっている。

以上、2節～4節では「セズニイル」についてみてきた。ここで「セズニイル」に関する考察をひとまず終え、以下では「セズニイラレナイ」についてみていく。

## 5. 「セズニイラレナイ」の問題点

先行研究によれば、「セズニイラレナイ」は「強い衝動・欲求」(金水(2000)p.53)を表す表現、あるいは「抑制がきかずにどうしても自然にそうしてしまう」(森田・松木(1989)p.248)ことを表す表現とされる。ここではこういった指摘を踏まえ、「セズニイラレナイ」の意味的なバリエーションを記述していく。それと同時に、この形式の意味が「セズニイル+可能+否定形」という各部分の意味を合わせたもの、すなわち“せずにいることが不可能である”という意味から徐々に変化していく様子も明らかにしていきたいと思う。

また、「セズニイラレナイ」は次のように、やや意味は異なるものの「セザルヲエナイ」と置き換えが可能になる場合がある。

(33)「(略)朝八時になると、暖房はびしっと停めるしね。学校に {行かずにいられない/行カザルヲエナイ} んですよ」(太郎)

となれば、どのようなときに両者の意味が近づくのかということも問題になる。意味タイプを記述すると同時に、こういった「セザルヲエナイ」との関係も明らかにしていきたい。

## 6. 「セズニイラレナイ」の意味タイプ

### 6.1 否定極性表現と共起する例

「セズニイラレナイ」には、次のように否定極性表現と共起する例がある。

(34)本会議では「町も行政改革で厳しい選択をしているなか、議会だけ何もせずにいられない」「議員定数を減らしても議会機能は低下しない」などの理由から賛成十一、反対三の賛成多数(議会は現在欠員二で総数十五)で可決した。(朝日'00/6/22)

次の(35)も、「一度も」という否定極性表現と共起する。

(35)ワカバさん(20)は長時間手を洗わずにいられないことを事細かに説明しようとするが、自

言のなさが垣間見られる。(朝日'02/10/12)

(35') 長時間一度も手を洗わずに**いられない**。

これらの例は、次のように「セズニ」の部分<sup>1</sup>が独立した構造を持っている。したがって、このタイプは先にみた「セズニイル」の構造的特性をそのまま引き継いだものといえる。

(34') [議会だけ何もせずに] **いられない**

(35'') [長時間一度も手を洗わずに] **いられない**

ただし、意味的には一部、次にみる形式の融合が進んだタイプへ向けての変化がみられる。上記二例のうち、(34)は単に“～せずにいることは現実問題不可能である”ということを表しており、6.2以下でみるタイプのような特別な意味合いは含んでいない。これに対して、(35)は“～せずにいると主体の気持ちがおさまらない”ということを表しており、すでに次にみる主体の心情などを含んだタイプに一步近づいている。

これら、否定極性表現と共起する例はごくわずかであるが(全用例513例中3例のみ)、「セズニイル」から「セズニイラレナイ」への移行の道筋をたどる上で重要である。

## 6.2 肯定極性表現と共起する例

### 6.2.1 「どうにも」の共起からみた分類

6.1でみた例と異なり、以下でみる例はすべて肯定極性表現と共起する。

(36) 「すみれのことを忘れたくなくて、だれかに話**ず**に**いられ**なかった。中川さんが受け止めてくれたんです」と由更さんという。(朝日'00/4/19)

(37) 「自分を表現するのが基本的に好きみたい。芝居をしていない時が続くと、何かせ**ず**に**いられ**なくなるの」(佐賀'98/6/28)

これらの例では、「セズニ」の部分の独立性が薄れ、「セズニイラレナイ」全体が一つの形式としてまとまっている。こういった融合の進んだ例は、大きく二つに分けられる。一つは次のように「どうにも」と共起するものである。

(38) 気持ちが荒ぶれて**飲ま**ず**に****いられ**ない。(朝日'01/3/27)

(38) 気持ちが荒ぶれて**どうにも****飲ま**ず**に****いられ**ない。

このタイプの例は、“せずにいようとしても、あるいはどう抵抗しても、せずにいることは不可能である”ということを表す。

もう一つは「どうにも」と共起しにくいものである。

(39) 宇奈月町で黒部川を見た。水がまるでヒスイのような色をしていた。なんと美しい県なのか、**と思**わ**ず****に****いられ**なかった。(朝日'97/3/21)

(39') ?なんと美しい県なのか、と**どうにも****思**わ**ず****に****いられ**なかった。

このタイプの例は、(38)と異なり、単に“自然にそうなる”ということだけを表している。(このタ

イプの意味規定については、6.2.4でもう少し詳しく検討する。）

(40) ≪肯定極性表現と共起する例≫

1. せずにいようとしても、あるいはどう抵抗しても、せずにいることは不可能であるということを表す。「どうにも」が共起する。）

2. 自然にそうなることを表す（「どうにも」は共起しにくい。）

1の例は、[せずにいる]状態を保とうとすることができないという点で、意味の上では「セズニイル」を引きずっている。一方、2では「せずにいる」状態を保とうという意識はほとんどない。したがって、意味の上でも「せずにいる」の部分の独立性が薄れてきている。

以下ではまず1のタイプからみていくことにする。なお、「セズニイラレナイ」の各意味タイプはすべて連続的である。上記の1と2も中間的な例を間にしてつながっている。

### 6.2.2 主体の気持ちが動機となるタイプ

(40)の1の「どうにも」が共起する例は、さらに二つのタイプに分けられる。まず一つ目のタイプは、主体の気持ちが動機となるものである。

(41) 「私、頑張っているって言えるのかなあ？」

仕事も、家事も、万事にわたって無意識に、「承認」を求めずにいられない。(アエラ'00/5/15)

(42) しかし、東京・国分寺市で主婦業とルポライターの仕事を両立している橋由子さん(四三)が、自分の電話癖を、アルコール依存症などと同じように病的な嗜癖と考えざるを得なくなったのは、母親と会話していると、かならず自制できなくなって、感情を暴走させてしまい、受話器を置いてから、とめどなく自己嫌悪に陥るからだ。それなのに、一週間もすれば、また電話せずにいられなくなるのだ。(朝日'97/1/13)

(41)(42)は“～しなければ気持ちがおさまらない、そのためそうせずにいることはできない”ということを表している。6.2.1であげた(38)もこれらと同様、主体の気持ちが動機となる例である。

次の(43)は思考動詞の例であるが、この例も「力が衰えれば、君臨した神でさえ、次の世代に押しつけられていく」ことはわかっている、それに反論したい気持ちが自然に湧きあがってきて、「でも」と思わずにすることができないということを表しており、湧きあがる気持ちが“～せずにいられない”ことの動機となっている。したがって(41)(42)と同様のタイプと考えられる。

(43)力が衰えれば、君臨した神でさえ、次の世代に押しつけられていく。どんな世界でも同じだろう。

でも、と思わずにいられない。がんばってよ、マイケル。39歳。同い年なんです、わたし。(朝日'02/4/16)

以上、ここでは主体の気持ちが動機となるタイプをみた。

### 6.2.3 状況が動機となるタイプ

「どうにも」が共起する例の中に、「セザルヲエナイ」で置き換えられる例がある。

(33) 「(略) 朝八時になると、暖房はびしっと停めるしね。学校に 行かずにいられない / 行カザルヲエナイ んですよ」 (太郎)

(44) いずれにしろ、今後米国がイラク攻撃に踏み切れば、小泉首相も何らかの判断を 示さずにいられなく / 示サザルヲエナク なる。(朝日'03/1/27)

これらは、「まわりの状況から、せずつていることはできない」ということを表すものである。(33)は、八時になると暖房を止められるため、学校に行かずにいることができないことを表している。(44)は米国がイラク攻撃に踏み切るという状況が引き金となって、判断を示さずにいることができなくなるということを表している。

もっとも、これらの例でも主体の気持ちがまったく読み取れないわけではない。たとえば(33)では居心地悪くされて落ち着かないため、また(44)では米国がイラク攻撃に踏み切って気持ちが追い立てられるためというようにも解釈できる。だが、(41)～(43)ではもっぱら主体の気持ちが動機になっていたのに対して、(33)(44)では、まわりの状況がまず主な動機となり、それに主体の気持ちが付随している。この点で、一つ目のタイプと二つ目のタイプは異なっている。

これらの例は、「セザルヲエナイ」で置き換えられることが示すように、当為表現に近い位置を占めるものである。さらに、やや意味は異なってくるものの、(33)は「スルシカナナイ」に、また(45)は「シナケレバナラナイ」に置き換えられることから、当為と近接していることがうかがえる。

(33') 朝八時になると、暖房はびしっと停めるしね。学校に行くしかないんですよ。

(44') いずれにしろ、今後米国がイラク攻撃に踏み切れば、小泉首相も何らかの判断を示さなければならなくなる。

次の例は、思考・感情を表す例だが、「何人もの議員が疑惑＝スキャンダルの渦中にいる」という状況から判断して、「日本」という国に対して不信感を抱かずにいることができないということを表しており、(33)(44)と同様のタイプである。

(45) 日本は、不況ではあっても「先進国」である。諸外国からの注目度は高い。そんな国で、何人もの議員が疑惑＝スキャンダルの渦中にいる。国民の政治不信が進むだけでなく、諸外国も「日本」という国に対して不信感を 抱かずにいられない / 抱カザルヲエナイ のではないだろうか。  
(朝日'02/5/9)

以上、ここでは状況を動機とするタイプをみた。

### 6.2.4 心情が自然に動くことを表すタイプ

ここでは(40)の2の例をみる。上述したように、このタイプの例は「どうにも」とは共起しにくい。そして「どうにも」が共起するタイプにあったような“せずついようとしても、あるいはどう抵抗し

でも、どうにも～”といった意味合いは含んでおらず、単に“自然にそうなる”ということのみを表している。たとえば、(39)は“思わずにしようとしても”といった意味合いなしに、単になんと美しい県なのかという思いが自然にわきあがってくることだけを表している。

(39)宇奈月町で黒部川を見た。水がまるでヒスイのような色をしていた。なんと美しい県なのか、  
と思わずにいらなかった。(朝日'97/3/21)

(39')??なんと美しい県なのか、とどうにも思わずにいらなかった。

(46)「楽しみ無限の畑仕事大好き」(17日付)の田之上クニさんもそのお一人だ。お年は80歳を超えておられるが、かつて教員をされており、頭も体も惜しみなく使われていて尊敬せずに  
られない。(朝日'01/11/23)

(46')??お年は80歳を超えておられるが、かつて教員をされており、頭も体も惜しみなく使われて  
いてどうにも尊敬せず*に*られない。

用例をみたところ、このタイプの例は、思考・感情を表す動詞に限られるようである。唯一、次の例が思考・感情の動詞以外の例であったが、これも心の中での声援、応援であり、思考・感情の動詞に近いものである。

(47)このようなことを知ると、時代の移り変わりとはいえ、佐賀もなかなかのものではないかとあ  
らためて感じさせられる。これからも大いに頑張ってくださいと、声援を送らずに*い*られない。

(佐賀'01/1/24)

(47')??これからも大いに頑張ってくださいと、どうにも声援を送らずに*い*られない。

そこで、このタイプの意味を次のようにとらえ直しておく。

(48)「どうにも」が共起しにくいタイプ：心情が自然にわきあがってくることを表す。

以上、ここでは心情が自然に動くことを表すタイプをみた。

この節のまとめとして、「セズニイラレナイ」の全意味タイプを示しておこう。

(49)《「セズニイラレナイ」の意味タイプ》

1. 否定極性表現と共起する ([せずに]の部分：構造上独立している)

a. 事実上不可能であること、気持ちが動機となって不可能であることを表す。

2. 肯定極性表現と共起する ([せずに]の部分：独立していない)

i. 「どうにも」と共起する ([せずにいる]の部分：意味上独立している)

b. 気持ちが動機となるタイプ

c. 状況が動機となるタイプ—「セザルヲエナイ」で置き換えられる⇒当為表現へ

ii. 「どうにも」と共起しにくい ([せずにいる]の部分：独立していない)

d. 心情の自然な変化を表すタイプ

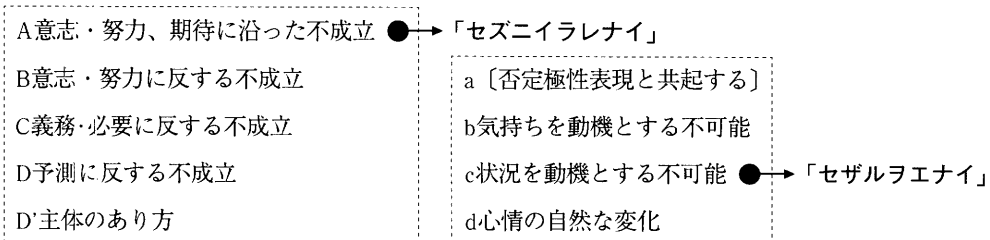
上記、1から2に移行するにつれて、構造上「セズニ」の部分の独立性が薄れ、一つの形式にまとま  
っていく。さらに、2ではiからiiへ移行するにつれて、「セズニイル」の部分の意味的な独立性が薄れ、

各部分の融合が進んでいく。それに伴い、主体の気持ちがかかわる (b)、当為判断に近づく (c)、あるいは主体の単なる心情の変化を表す (d) というように、さまざまな要素が絡まってくるのである。

## 7. おわりに

この論文では、「セズニイル」「セズニイラレナイ」を対象に、それぞれの意味内容を検討した。両者の意味タイプを簡単に示しておく。

「セズニイル」



さて、「セズニイル」は主体のあり方を表す表現であるが、同時に意志や当為判断といったモーダルな要素を含む形式であった。また「セズニイラレナイ」は、構造上は「セズニイル」に可能の否定形が加わったものであるが、その意味内容は否定への変化に加えて、主体の気持ちや当為判断が含意される、あるいは主体の気持ちの変化そのものを表すなど、さまざまな要素の絡まるものであった。

以上の考察の結果は、否定の特性、すなわち肯定形から否定形への変化は、単に肯定が否定になるという極性の変化にとどまらず、そこにさまざまなモーダルな要素を引き寄せやすい変化であるということを示しているのではないと思われる。

## 注

- (5)は「[太郎がしていない] ことが何かある」という意味でなら適切な文になる。
- 「Aクラスの生徒は、だれも走らずにいる。」のように、「だれも」のほかに「イル」の主語に解釈できる語がある場合は、「だれも」と「セズニイル」が共起する。
- 従来、「きっかけ」を表す「と」の文で一回限りの事柄を表す場合、「と」の前に否定形式はこないとされる(豊田(1983)など)。ところが、「セズニイル」の例文をみると、「きっかけ」を表す「と」と共起し、しかも一回限りの事柄を表す例が多数ある。

例)そうして彼等とはときどき私の方をふり向いて手招きをしたが、私が下生えに邪魔をされてなかなか其処まで行くことが |出来ずにいる/\*出来ナイ/\*出来テイナイ| と、大きい方がその実を少しばかり私のためにもって来てくれた。(風立)

これも、「セズニイル」が最終的には肯定形式であることによるものであろう。

- ただし、「セズニ」の主体は、(10)でいえば「A投手の持っているイメージ」というように、「イル」

の主体に属するものである場合が多い。

5. 国や政府、企業など、背後に人間の存在が認められるものは非情物主語とはしていない。
6. (25)(26)では、それぞれ「いる」の主体は「門松」「桜の老樹」である。だが、“すべきことをしない”“なぜか気づかない”という意味合いが当てはまるのは「門松」「桜の老樹」ではなく、「取り払う」「気づく」という動作の主体である。

#### 用例の出典

大江健三郎『死者の奢り』、新田次郎『孤高の人』、沢木耕太郎『一瞬の夏』、宮本輝『錦繡』、竹山道雄『ビルマの豎琴』、塩野七生『コンスタンティノープルの陥落』、五木寛之『風に吹かれて』、山本有三『路傍の石』、堀辰雄『風立ちぬ』、曾野綾子『太郎物語』(以上、『CD-ROM版新潮文庫の100冊』)、『アエラ』、『朝日新聞』(以上、朝日新聞記事データベース)、『佐賀新聞』(佐賀新聞ホームページ)

#### 参考文献

- 金水敏 2000 「時の表現」『時・否定と取り立て』岩波書店
- 工藤真由美 1995 『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』ひつじ書房  
——— 1996 「否定のアスペクト・テンス体系とディスコース」『ことばの科学』7 むぎ書房
- 高橋太郎 1976 「すがたともくろみ」『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
- 寺村秀夫 1979 「ムードの形式と否定」『英語と日本語と 林栄一教授還暦記念論文集』
- 豊田豊子 1983 「接続助詞「と」の用法と機能(V) —因果を表す「と」—」『日本語学校論集』10
- 森田良行・松木正恵 1989 『日本語表現文型』アルク